

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
地域火山監視・警報センター
鹿児島地方气象台

< 噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引き上げ >

新燃岳では、本日（11 日）05 時 34 分頃に新燃岳火口東側から小規模な噴火が発生し、本日 13 時現在も継続しています。この噴火に伴う噴石の飛散は確認していません。

火山性微動は、10 月 9 日 13 時以降時々発生し、10 日 22 時過ぎから発生した連続的な火山性微動の振幅は、本日 03 時以降消長を繰り返しながら、時々大きくなっています。

9 日 15 時 12 分頃に発生した火山性微動に伴う傾斜変動以降、新燃岳方向が隆起する傾斜変動が継続しています。

今後、さらに活動が活発になる可能性があることから、本日 11 時 05 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引き上げました。

【防災上の警戒事項等】

新燃岳では、火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1）

新燃岳では、本日（11 日）05 時 34 分頃に噴火が発生しました。監視カメラでは灰白色の噴煙が火口縁上 300 m まで上がり、本日 13 時現在も継続しています。また噴煙の量も次第に増加しています。

・地震や微動の状況（図 2、図 3）

火山性微動は、10 月 9 日 13 時以降時々発生し、10 日 22 時過ぎから発生した連続的な火山性微動の振幅は、本日 03 時以降消長を繰り返しながら、時々大きくなっています。

・地殻変動の状況（図 4）

9 日 15 時 12 分頃に発生した火山性微動に伴う傾斜変動以降、新燃岳方向が隆起する傾斜変動が継続しています。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、宮崎県及び鹿児島県のデータも利用して作成しています。

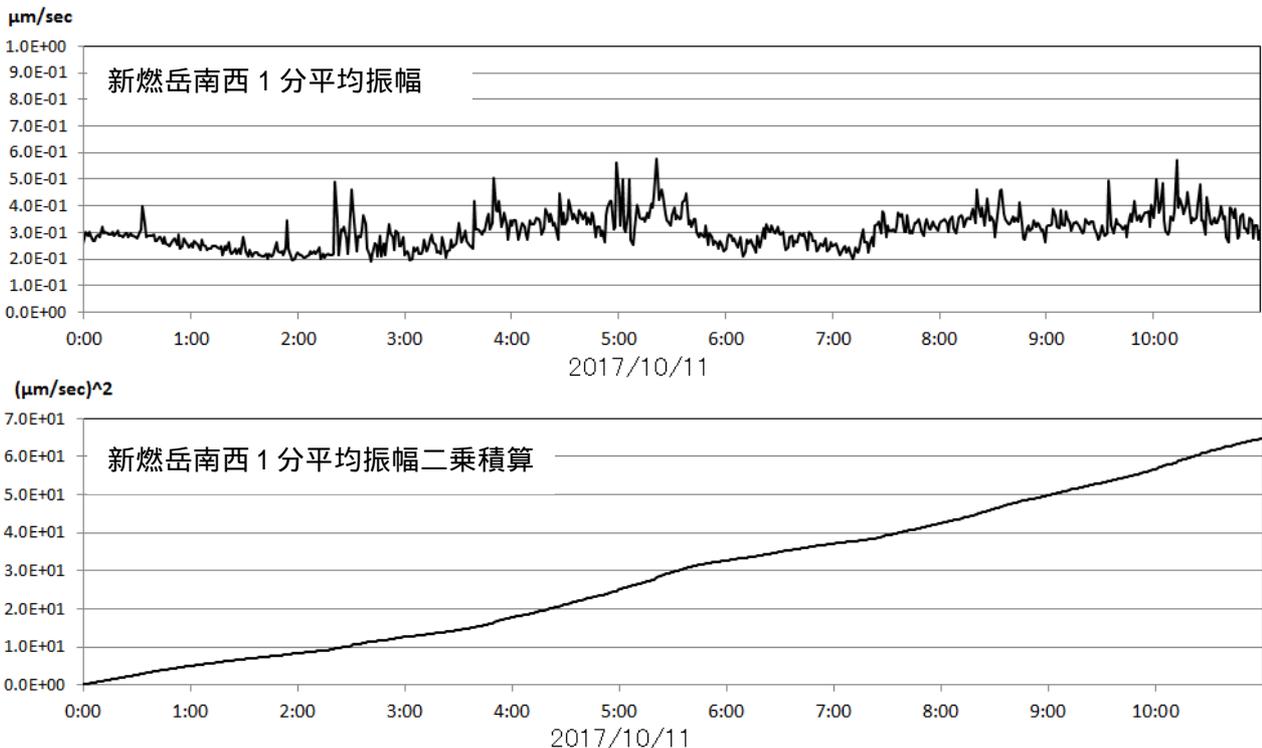
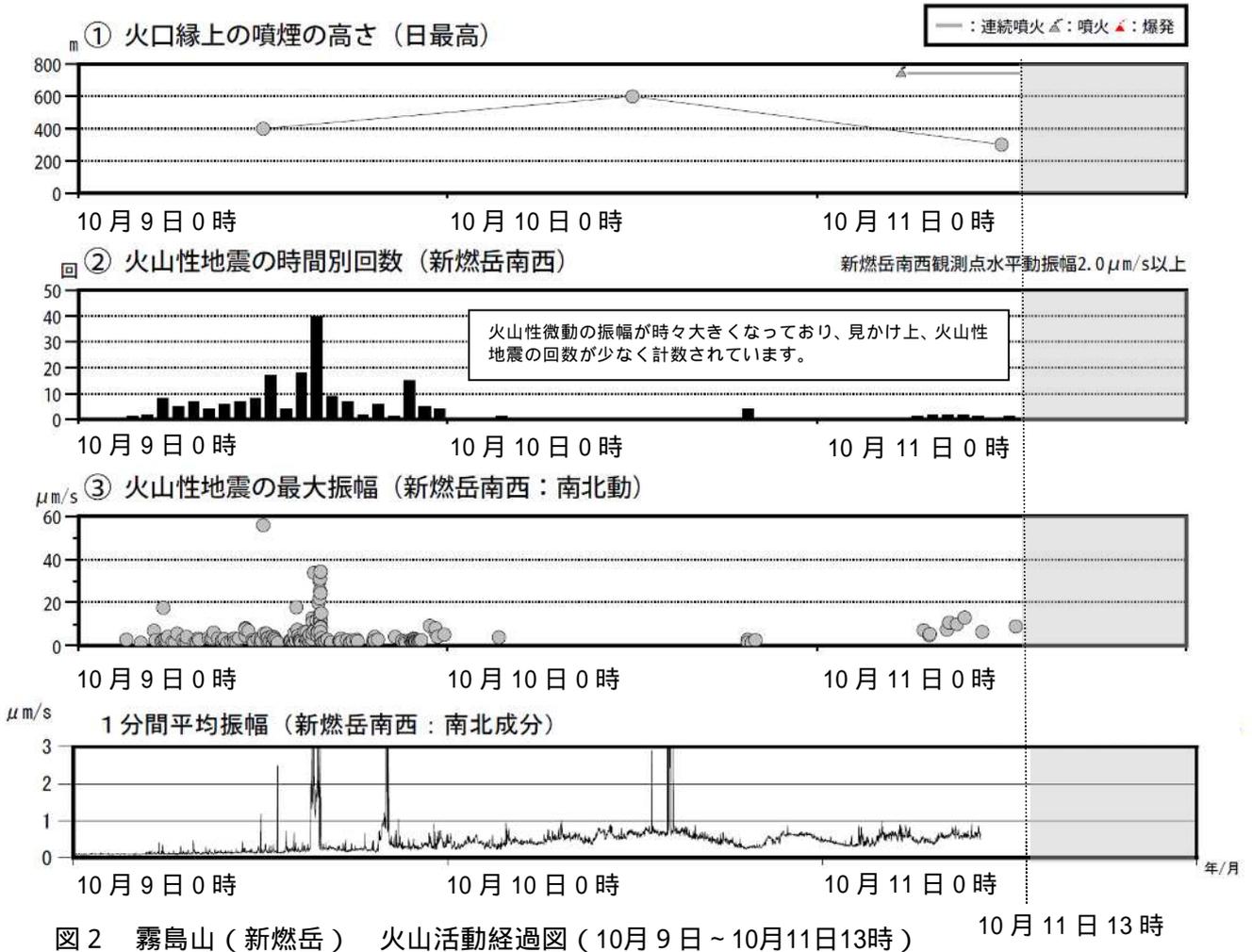
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。



図 1 霧島山（新燃岳） 噴火の時の監視カメラの映像（猪子石からの監視カメラ）

新燃岳では、本日（11日）05時34分頃に噴火が発生しました。監視カメラでは灰白色の噴煙が火口縁上300mまで上がり、本日13時現在も継続しています。また噴煙の量も次第に増加しています。

噴煙量が多くなったため、10時から画角を広くしています。



火山性微動は、10月9日13時以降時々発生し、10日22時過ぎから発生した連続的な火山性微動の振幅は、本日(11日)03時以降消長を繰り返しながら、時々大きくなっています。

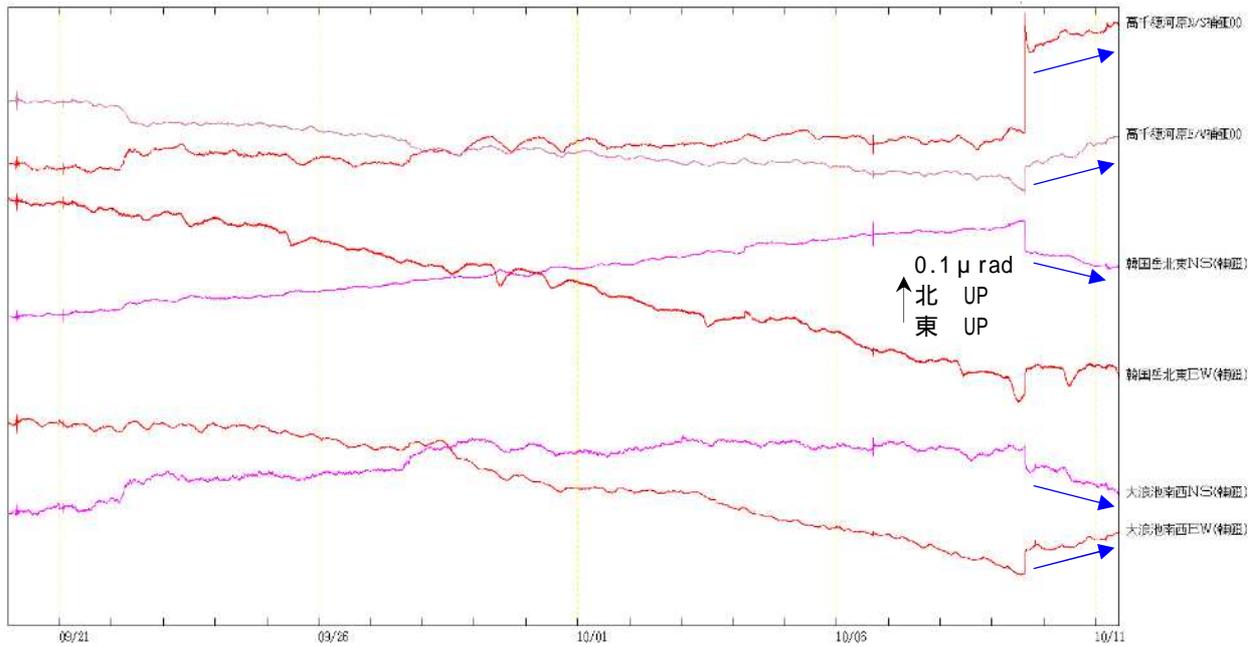


図4 霧島山（新燃岳） 傾斜変動経過図

9日15時12分頃に発生した火山性微動に伴う傾斜変動以降、新燃岳方向が隆起する傾斜変動が継続しています（図中青矢印）。

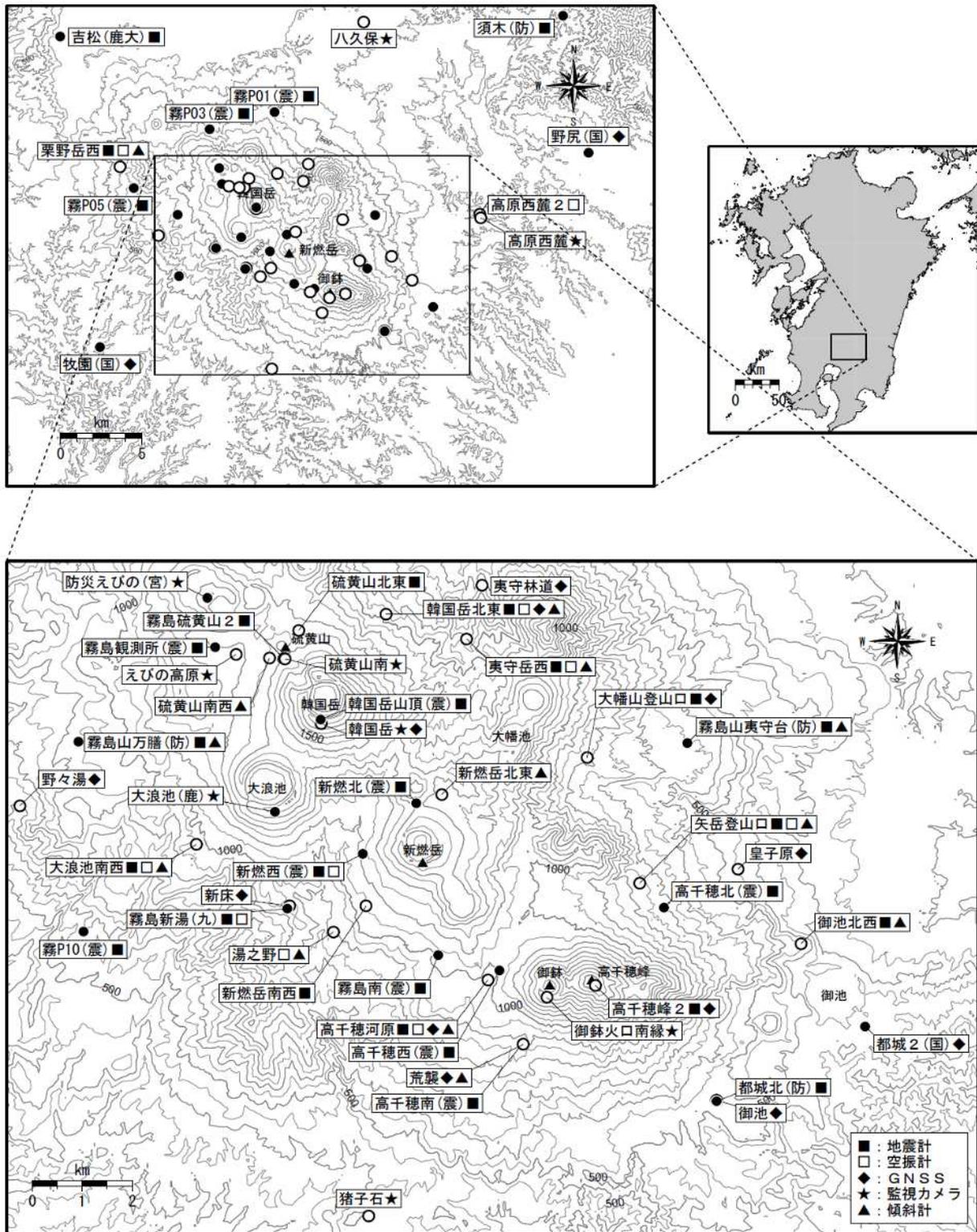


図5 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 () は気象庁、小さな黒丸 () は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所
 (九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県